

関連項目：教育活動プラン②、③

よりよい人間関係の育成を目指した全校道徳・全校学級活動

目的

本校の児童は、年少時から同じ少人数の集団で行動をともにしているため、偏った人間関係や接し方をとりがちな傾向が見られます。そこで、よりよい人間関係の育成を目指して、全校生が一つの教室に集まり、同じ資料を使ってよりよい人間関係や考え方を学ぶ全校道徳を実施したり、実践につなげるソーシャルスキルトレーニングを取り入れた全校学級活動を設定したりすることにしました。

内容

● 心をたがやす全校道徳

◇ 全教職員で効果的な全校道徳の授業をつくる

児童の心に響く道徳の授業を目指し、全教職員が以下のような視点で連携・協力し、授業づくりをしました。

- ・本校の課題から解決を図るための道徳的な価値と資料を選定
(道徳的価値を「信頼・友情」とし、1学期の資料を「とべないほたる」、2学期の資料を「にじいろのさかなしましまをたすける」としました。)
- ・教師の役割分担、話し合いが停滞したときの支援の方法、ワークシートの様式も全教職員で作成、共通理解を図りました。

◇ 児童の反応

- ・とべないほたるのことをほったらかしにせず、まわりのほたるたちが助け合っているところがすばらしいと思いました。
- ・ひとりぼっちの子ができないように気を付けようと思います。



● なかまづくりを目指した全校学級活動

◇ 道徳と関連させた全校生によるソーシャルスキルトレーニング

事前に各学級で行われた道徳についての情報交換、人間関係についてのアンケート、教師の役割分担と打ち合わせ、話し合い活動のグループ分け(異学年で編成)等をしており、その後、全校学級活動を実施しました。

- ・これまでに「みんなが楽しく、気持ちよい毎日にしよう」「これまでの学びを生かして、北浦っ子人権宣言を作ろう」「自分のがんばりを発表しよう」「どんな自分になりたいのか自分物語を考えよう」の課題で実施しました。



成果

こうした取り組みを通して、友達に対する言動を振り返り、よりよい接し方に気を付けようとする児童が増えてきました。また、児童の意識が持続するよう、北浦っ子人権宣言や自分物語は、今でもよく目にする所に掲示しています。